



第3号

高知県立高知国際中学校だより

高知県立高知国際中学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

みんな学習者

主幹教諭：井上 祐子

平成30年9月1日(土) 本校は国際バカロレア機構(IBO)から、ミドル イヤーズ プログラム(MYP)の候補校として正式に認定されました。開校前から今日まで、多くの方のご理解とご協力のもと準備してきた理念や授業計画、体制など、全てにおいて十分目的を達成できると認められたものです。認定校となるには、今後1年間候補校として、試行する必要があります。IBOの専門スタッフが、数日間実際に授業参観や学校関係者との面会を行い、水準以上の質が持続できると確認した後、認定校となります。

「探究的な授業ができていくかどうか、どうやって判断していますか」とIBOの方に聞かれたら、そのルーブリックは「家庭でどれだけ話題になったか」であり、「思わず保護者も回答してしまった」場合が最高点かしら・・・とぼんやり考えていました。

この夏休み明け、保護者の方も夏の課題やSA(奉仕活動)にチャレンジして下さったと子どもたちが話してくれました。(決して、子どもの代わりに答えを書いたという意味ではありません)世界平和は家庭から！ 私たち教職員は、“思わず保護者も回答したくなる授業”を旨とし、探究します！2学期もよろしくお願いいたします！

安藤桃子さん来校!!

9月12日(水)、映画監督の安藤桃子さんをお招きし、新しい視野に関する講演会を行いました。安藤さんはロケをきっかけに高知に移住され、帯屋町に映画館を作る活動でも有名です。生徒は雑誌記事から安藤さんへの質問を考え、講演会はその質問をもとにインタラクティブに展開されました。生徒振り返りでは「高知は逆に日本の先を進んでいる」「嫌いなモノと付き合うから自分の好きなモノが分かる」などの新しい視野が挙がりました。

総合的な学習の時間担当：佐野 武



【質問に応える安藤桃子さん】

SAは何のために？

MYPで実践するサービス アズ アクション(SA)とは、生徒が自ら起こす「行動」によって、人の役に立ち、他の人々の生活や身の回りの社会に貢献することを目指した活動です。みなさんも、「奉仕とは？」「貢献とは？」を考えることから始め、校内でできる「行動」を経て、これまでに多くの人がボランティアや自分で計画したSAに取り組んできました。しかし、タイトルのような疑問を持っている人も少なくないでしょう。そんな疑問からか、総合的な学習の時間にSAについて探究しているグループも出てきました。SAは特に、有意義なものにできるかということが「行動」する皆さんに大きくゆだねられているように思います。「何のために？」と思う時こそ「こなす」のではなく、アンテナを張りながら「行動」してみましょう！きっと誰もが何らかの形で、コミュニティーの中で行動し、協働できるはず。その気づきは振り返ることでも生まれます。

SA担当：古屋 佑奈

MYP ミーティング

教科の内容を通じて概念を理解すること、そのための方法を学ぶこと。この2つがIBの、特にMYPの授業における生徒の目標です。この観点から考えて、本校の教師に求められる授業技術は多少特殊性を持ちます。それは、生徒たちが概念を主体的に学ぶためのテーマを設定する能力であったり、協働的に学ぶようにコミュニケーションを促す能力であったりします。IBにかかわるすべての教師にこれらの能力は必須であるため、大学院でIBの教育手法について専門的に学んだ教師陣を中心に授業設計と学習指導について勉強会を毎週行ない、授業力向上に努めています。

IB推進担当：堀 謙一

カフェがオープン♪

本校では、授業以外の時間に身近な専門家をお招きしてお話できるカフェのような場を設けています。1回目は、8月8日(水)「なな子カフェ」。高知市出身でインドのIBディプロマ校を卒業された佐野なな子さんをお招きしました。様々な文化をもつ友人と寮で夜中まで勉強したことや自主的な活動に没頭した日々のお話を話してくれました。IBで学んだことで、何事もクリティカルに見て情報を精査できるようになったそうです。現在はDPスコアによって入学したアメリカの大学に通うなな子さん。高知の公立でのIB教育を応援したいと、今後本校のためにアメリカからコラムを送ってくださることになりました。

2回目は、9月14日(金)JINNYカフェ。かつて中村高校の留学生だったJINNYさんは現在5か国語を話します。様々な国で学び、人生を楽しんでいるようでした。その生き方や外国語の勉強法などを聞くことができました。さて3回目はどなたでしょう？お楽しみに！

主幹教諭：井上 祐子

あけぼの祭

生徒会担当：堀見絵里沙

9月8日（金）9日（土）には、高知国際中学校では初めての文化祭となる「あけぼの祭」が、高知西高等学校と合同で行われました。天候が不安定な中、たくさんご来場いただき、ありがとうございました。生徒たちは、夏休み前から準備を始め、放課後や休みの日を使いこの日のために取り組んできました。



【看板装飾係】

○入口の装飾を運んだり、色を塗るのを手伝ったりしました。とても重かったけど、みんなで運ぶのは楽しかったです。

○高校生と協力して交流ができてよかったです。高校生がほとんどやってくれたので、もっと積極的に看板づくりに取り組めばよかったです。



【1-A 依存トフォン】

○みんながアイデアを出し合っていたこと、劇が終わると必ず振り返りができたことが良かったです。

○どうしたら劇が良くなるか、どうしたら暗幕のひもがたるまないか、どうしたらお客さんが入るかなどの試行錯誤を何回も繰り返しました。

【文化祭実行委員】

○スタンプラリーの説明が十分でなく、コンプリートした人が少なかったため、次回はもっと宣伝をしたい。

○全体の準備から片付けまで、あけぼの祭を下から支えました。体力面が課題だったので、もっとみんなのカバーや自分の仕事ができるようになりたいです。



【1-B 白雪姫】

○暗幕を支えて裏のものを見えなくしたり、場面が変わる様子を表現しました。裏方でもみんなの役に立っているということを感じました。

○一つ一つの役割は一人ではできないので、人と協力することが大切だということがわかりました。人が足りていなければかけつけて手伝うことができました。



【美術部、美術の授業での作品や英語のポスターを展示】



【吹奏楽部】

○初本番、初ステージ、初高校生との合奏だったけど、中学生部員で協力し、無事成功しました。

○当日、お客さんの前で「西高と国際中はこんなにできるんだ」と思ってもらうために、曲を演奏して、自分の経験とすることができました。

北海道道東地域を視察しました

校長：森本民之助



【納沙布岬から歯舞群島を望む】

平成30年8月19日（日）～21（火）、内閣府北方対策本部が企画する「北方領土隣接地域への修学旅行誘致促進事業のための下見ツアー」に参加し、北海道道東の羅臼町、中標津町、標津町、別海町、根室市を訪問しました。この企画は次代を担う若い世代の北方領土問題に対する関心を喚起するための企画です。

1日目、午後1時過ぎ、北海道道東唯一の中標津空港に到着。標津サーモン館や羅臼ビジターセンターなどを中心に視察し、北海道の雄大さ、道東の動物や魚、知床半島の自然などについて学びました。2日目、北方領土館、別海町観光船、北方四島交流センターニホロなどを視察しました。別海町観光船では、道東と国後島の間に見えない境界線付近まで行きました。停船しているのは海の上ですが、ここに見えない境界線があることを強く感じました。3日目、根室半島、納沙布岬・北方館、明郷伊藤牧場などを視察しました。納沙布岬から歯舞群島の一番近いところまで3.4kmです。また、北海道の牧場の広さを実感しました。乳製品の質が高いことがわかります。

今回、実際に現地に出向きその場所を体感し、関係者から話を聞くことの大切さがわかりました。高知県では国境問題をあまり意識する場面はありません。しかし、日本のあらゆるところで国境を意識しなければならないことがあります。これからのグローバル社会で活躍する若者にとっては、国境問題の存在を正しく認識し、強い意志と平和への願いを持つことが必要です。日本のすべての場所で人々が誇りをもって生活していることを知ってほしいと思いました。

受賞しました!!

第4回ジョン万次郎英語弁論大会

1年Aホーム ブレイク 未亜さん

高知県教育長賞 受賞 “Dear John Manjiro”

高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会高知県大会

1年Bホーム 岩井 望奈さん

読売賞 受賞 “Red Demon and Blue Demon”



【大会の様子】

第3回高知県学年別水泳競技大会

1年Aホーム 岡谷 存哲さん

中学1年 男子 50m 自由形 27.38 第1位

中学1年 男子 100m 平泳ぎ 1:12.78 第1位

中学1年 男子 200m 個人メドレー 2:27.42 第1位



すばらしい！三冠達成です!!これからの活躍に期待大です☆

IB 公式校内ワークショップ

先述の通り、このたび、MYP 候補校に認定されました。日々の実践を、組織的な取組とするため、IBO では候補校段階で、教職員全員対象の校内ワークショップを2～3日間開催することを義務づけています。そこで、IB 公認の指導者である小松万姫先生に2日間ご指導いただき、授業計画の精度をあげることに没頭しました。自分の専門教科外の教員との協議は、常に新鮮な発見があり発想を促してくれる時間です。学校の核であり子どもたちの成長の核となる授業を、より確かなものにするために、2学期も授業研究の時間を重視していきます。

主幹教諭：井上祐子

課題研究発表

8月26日（水）、東京都で開催された日本特別活動学会第27回大会において課題研究発表を行いました（特別活動とは、学級活動・生徒会活動・学校行事など、人間関係や集団生活に関わる学習のこと）。

発表では、本校のサービスアズアクション（SA）の実践を紹介し、SAの7つの学びの観点が「計画→行動→振り返り」の一貫性を助けることを示し、PYP認定校の聖ヨゼフ小学校・DP認定校の千代田高等学院の教員とともに、会場を交えてのディスカッションを行いました。学会では新学習指導要領の評価方法が議論されており、本校のように生徒の主体的な計画を振り返りまで同じ指標で個別指導する体制や、学習履歴として残るポートフォリオ（赤いファイル）に注目が集まりました。

教諭：佐野武

それゆけ！突撃インタビュー。

今回から新しく始まった「それゆけ！突撃インタビュー。」のコーナーです。このコーナーは高知国際中学校を一緒に創りあげてくれる人々に、謎の記者（月光）が突撃インタビューを敢行します。記念すべき第1回が一番身近な高知西高校の校長先生へのインタビューです。竹村 謙（たけむら けん）校長先生は、本年度の人事異動で高知県立須崎工業高等学校から高知県立高知西高等学校の校長として赴任されました。



【竹村謙校長】

1 経歴の概略を教えてください。

昭和59年に理科（物理）の教員として採用され、安芸高校（10年）、高知西高校（10年）で勤務した後、高知県教育委員会事務局高等学校課、高知小津高校教頭、須崎工業高校校長を経験し、現在に至ります。ちなみに、森本校長先生とは同級生で、大学時代はともに理学部物理学科で学び、高知県教育委員会では一緒に勤務しました。

2 いつも元気な挨拶が印象的ですが、元気の秘訣は何ですか。

もともと「挨拶は元気に」がモットーでもありますが、元気の秘訣は、日頃から身体を動かすことや、長年部活動としても携わってきたソフトボールで週に一回は汗を流していることですね。

3 校長先生の一番楽しい時間はどんなときですか。

学校で生徒たちから、明るく笑顔で元気な挨拶をもらったとき。そして、個人的には身体を動かし、大きな声を出しながら汗を流しているときです。

4 座右の銘は何ですか。

「この世に生を得るは、事を成すが為なり」

この世界に生まれた以上、事の大小はではなく、一つでも二つでも何か世のため人のためになることをやっといこうといった意味です。

5 高校の校長先生の立場から見て、高知国際中学校はどのように見えますか。

生まれただのヒナのような存在。これから様々な経験を積んでいくことで、一年一年大きたくましく成長していく未来を期待しています。

6 高知県全体の高校教育を考えたときに高知西高校の使命をどのように考えていますか。

入学してきた生徒全員の未来をともに創造し、高知や日本、そして世界に少しでも貢献できる人材を育成していきます。さらには、その取組や高知西高校の良き伝統をしっかりと高知国際中学校・高校に引き継いで行くことが必要だと思います。

7 最後に高知国際中学校の中学生にメッセージをいただけますか。

入学して半年が過ぎましたね。新しい学校ができ、道なき道を進む皆さんは冒険者であり、チャレンジャーです。しかし、振り返れば、たった半年であっても、皆さんが苦勞しながら進んできた場所にはしっかりと道ができあがっています。これから入学してくる後輩たちのためにも、着実に一歩ずつ前進していきましょう。

お忙しい時に、お時間をいただきありがとうございました。 （月光）

台風・大雨等異常気象等への対応について

教頭：片岡真希

今年例年より台風が多く発生しており、全国各地での被害が報告されています。皆様のご家族お知り合い等に、台風や大雨による被害にあわれた方はいなかったでしょうか。

度重なる台風接近による大雨や影響により休校や始業時刻を遅らせるなどの対応につきましてご理解ご協力いただきありがとうございます。

さて、8月30日付文書「台風・大雨等異常気象等への対応について」でお知らせしましたように生徒・保護者の皆様への周知等につきましては、「臨時休校の場合」「始業時刻を遅らせる場合」のみ本校ホームページに当日午前6時までにその旨を掲載します。また、Classiを活用した連絡も行います。再度、ご確認いただくとともに安全確保を第一に適切な対応を今後ともどうぞよろしくお願い致します。

高知県立高知国際中学校

〒780-0852 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

TEL:088-844-1221 FAX:088-844-4823

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kokusai-jh/> Email: kokusai-jh@kochinet.ed.jp